

## V. 特記事項

### 1. 未来型医学教育と DX

現在、DX(Digital Transformation)を念頭に置かなければ高等教育は成り立たない。本学では平成15(2003)年から学修支援システム(LMS)を導入した。同時期、各教室の机にはレスポンス・アナライザーを装備し、TBL(Team Based Learning)などの双方向型授業を展開してきた。ICT推進センターの設置によりDXは急速に推し進められ、平成27(2015)年から講義の録画と配信、収録スタジオの設置、インストラクショナルデザインに基づいたコンテンツのe-learning化が行われ、教室間での講義の中継配信も可能にするなど、コロナ禍以前に、種々の運用システムは一定の完成を得た。同じ頃、小グループ学習室などに設置されたインターネット接続の大型電子黒板の活用は、PBL(Problem Based Learning)などの教育理論も踏まえた能動的学修を促進している。

このように本学では20年前からDXを意識し、風土として定着をみせている。自ずと学生はPCやタブレットを用いて自己学習を管理している。学習者エクスペリエンスの変化を敏感に捉え、VRや高機能シミュレーターの活用、アンドロイド型模擬患者ロボットの開発、「愛と研究心文庫」と名付けられた電子書籍を用いた情操、教養教育への展開など、本学の目指す未来型医学教育は、留まることなく、新しい時代の医療人育成に向け進化を続けている。

### 2. ダイバーシティ推進の取り組み

本学は、令和元(2019)年に文部科学省科学技術人材育成費養成事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に申請し、採択された。この事業は、女性研究者が研究活動と出産・子育て・介護などのライフイベントを両立できる環境を整備するとともに、女性研究者の研究力の向上を一体的に推進するための取り組みを支援するものである。

本学が代表機関となり、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社を連携機関として、研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組、女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組など、ダイバーシティ研究環境の実現を目指して、様々な取組を展開している。

具体的には、妊娠・出産、育児、介護などのライフイベントにある研究者の研究活動の維持と促進を図るため、実験やデータ解析などの補助をする研究支援員を配置する制度や病児・病後児及び休日勤務時などの保育支援制度、研究者のワーク・ライフ・バランスと研究に関する悩みや問題などを相談できる体制、ダイバーシティ意識醸成のためのセミナー開催などを実施している。

開始から3年で女性上位職は着実に増加し、女性の教授・准教授比率は、令和元(2019)年3月に6.5%・8.2%が、令和4(2022)年3月には12.4%・12.3%となった。また、女性研究者の科研費新規採択率も増加傾向にあり、令和元(2019)年度までは10%台で推移していたが、令和2(2020)年度以降は20%台に上昇した。

このような取り組みが評価され、令和4(2022)年1月には、全ての女性が意欲と能力に応じて、多様な生き方が選択できる社会の実現に向けて、女性の活躍推進に取組む企業や団体及び個人に贈呈される「令和3年度東京都女性活躍推進大賞(教育分野)」の優秀賞を受賞した。